

講社通信

近江神宮日供神饌講
新版第一号
平成二十年七月一日

本年の日供神饌講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、大津市講元講員の皆様に大膳職以下所役ご奉仕をいただき、賑々しく斎行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げます。

崇福寺鎮魂供養祭斎行 5/17

近江神宮では四月の例祭から始まり六月にかけて祭典が続きます。その間五月初めを中心に大津市内近辺の各神社の例祭も行われ、六月に入ると献茶祭・漏刻祭・献菓献煎茶祭・饗宴祭（日供神饌講社大祭）など、賑やかな日々を過ごします。

その中で、五月十七日には園城寺の執事様と共に崇福寺鎮魂供養祭が行われます。

崇福寺は近江大津京の乾の鎮護寺として、天智天皇の勅願により現在の天津市滋賀里山中に創建され、「志賀の山寺」として志賀越え山中の名所でした。平安時代には十大寺の一つとして朝野の崇敬が厚く、弥勒信仰の聖地として繁栄し、歴代天皇の行幸もたびたびであったと伝えられています。



室町時代には廃絶して所在も不明となりましたが、時移って昭和に至り、近江神宮創建に先立って大津京探索への努力が払われるなかで崇福寺跡と伝えられる遺跡の発掘調査が行われ、昭和十四年五月十七日、塔跡の心礎の穴の中に仏舎利に見立てた水晶玉を納め



た舍利容器その他の納置品が発見されました。その後その納置品は国宝に指定され、近江神宮奉賛会総裁であられた高松宮殿下のお声掛けにより近江神宮の御社宝とされ、今日に至っています。

舍利容器発掘より五十周年に当る平成元年五月十七日に第一回の崇福寺鎮魂供養祭が園城寺・近江神宮合同で行われ、本年は第二十回となりました。崇福寺塔跡の現地での祭典は、宮司の祝詞に続いて園城寺執事の表白文・般若心経奏上、龍笛による献楽が行われます。緑鮮やかななかにも楽の音が周囲に和し、志賀の山越えの昔を偲ばせます。

西大津駅を大津京駅と改称 3/15

天智天皇の古都・近江大津宮にちなんで、大津市は平成十五年より古都保存法による古都に指定されています。引き続き本年三月十五日、近江神宮また近江大津宮跡遺跡の最寄り駅であるJR湖西線西大津駅は大津京駅と改称されました。大津京駅前ロータリーには以前より時計に見立てた池が作っており、漏刻を設置された天智天皇の古都の最寄り駅であることを象徴的に表していたようですが、大津京の名称が駅名となり、名実共に近江大津京とこの地とのゆかりがはっきりと明示されることになりました。

↑近江大津宮錦織遺跡



以前の講社通信にかえて、粗略な形ではあります。が「新版」として年に数回発行し、近江神宮の年中行事のご紹介その他、講員の皆様にお知らせしていきたいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。